

研究主題 夢・志を育む教育活動の実践・研究 ～一人一人が大切にされる学級経営を土台として～

議題 「3年1組のハッピーハロウィンを楽しもう」 (1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

1. 学級活動(1)で育成を目指す資質・能力

- 学級や学校の生活上の諸問題を話し合っ解決することや他者と協働して取り組むことの大切さを理解し、合意形成の手順や活動の方法を身に付けるようにする。
- 学級や学校の生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、多様な意見を生かして合意形成を図り、協働して実践することができるようにする。
- 生活上の諸問題の解決や、協働し実践する活動を通して身に付けたことを生かし、学級や学校における人間関係をよりよく形成し、他者と協働しながら日常生活の向上を図ろうとする態度を養う。

育成すべき資質・能力の重要な視点

人間関係形成

違いを認め合い、みんなと共に生きていく力を育てる。

社会参画

よりよい集団や社会を作ろうとする力を育てる。

自己実現

なりたい自分に向けてがんばる力を育てる。

2. 第3学年及び第4学年における評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合っ実践している。	楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。

3. 議題について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、何事にも一生懸命に取り組むことができ、困っている友だちに対して優しい声がけができています。また、みんなのために自分ができることを考えて、さっさと気づいて行動できている児童もいます。授業の中では、手を挙げて積極的に発言をする児童もいるが、自分の考えを表現することに消極的な児童もいます。そこで、ペアやグループ対話を授業の中でも取り入れながら、自分の考えを相手に伝える活動を行ってきた。そうすることで、少しずつではあるが、友だちに自分の考えを伝え、相手の意見を聞き入れることができるようになってきている。

学級活動については、4月にオリエンテーションを行い、学級目標の「みんなで楽しく、助け合い、最後までがんばる3年1組」になるために、議題を考える時間をとり、やってみたいことなどを考えることができていた。計画委員は輪番制にし、それぞれが役割を持ち、学級会を行ってきた。1学期はクラス替えもあったので、「みんなで仲を深めるための楽しみ会をしよう」や「みんなが毎日楽しく、おもしろい学級になるための係をきめよう」など、クラスのみんなが楽しく過ごすためにできることを考え、実行してきた。計画委員を中心に話し合いを進めようとしているが、なかなかうまく進まず、時間がかかってしまい決められないこともあった。しかし、回を重ねるごとに、時間を意識しながら決めていこうとする姿が見られるようになった。また、国語科の学習で学んだ、「司会者」と「参加者」のそれぞれの役割を考えながら話し合う活動を通して、司会者の進行に沿って話し合うこと、そのためには参加者が意見を出し合うことなどを確認することができた。みんなが発表できるように司会者が投げかけたり、参加者は発表できなくても、友だちの意見に反応したりしながら、議題についてみんなで決めていこうとする姿が見られるようになってきている。

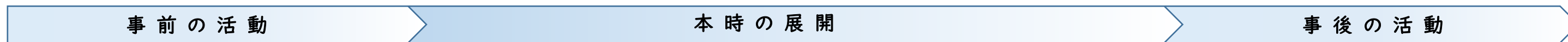
(2) 議題選定

本議題は、「10月31日のハロウィンをもっと楽しみたい」という児童の思いから選定された。相手意識として、「他の学年とも一緒に楽しみたい」、「全校で何かをしてみたい」という思いはあったが、まずは、「3年1組のみんなとやりたい」「自分たちのクラスの仲をもっと深めたい」という思いから、ハロウィンをしようということになった。

(3) 提案理由

提案理由としては、「もうすぐハロウィンだし、クラスでハロウィンをしたことがないので、みんなでするときっと楽しいと思ったから」という意見をもとに、柱1では、「何をするか」について話し合い、柱2では、「ハロウィンにするためのくふう」について、季節の行事をより実感し楽しめるように、話し合いを進めていきたい。

4. 指導と評価の計画



日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学
10月13日(金) ①昼休み ②帰りの会	①議題の選定計 ・議題カードをもとに話し合う議題を選定する。 ②議題の決定学 ・計画委員が選定した議題案をもとに、学級全員で議題を決定する。
10月16日(月) ③昼休み ④帰りの会	③役割分担計 ・学級会の役割分担やめあて、決まっていること、話し合いの柱等を確認し、学級会コーナーに掲示する。 ④案募集学 ・学級会ノートに自分の考えを記入する。
10月17日(火) ⑤昼休み	⑤案の整理計 ・学級会ノートに目を通し、書かれた意見を整理する。
10月19日(木) ⑥昼休み	⑥学級会のシュミレーション計 ・進行、板書をイメージしながら確認し、話し合いの見通しをもてるようにする。

◎目指す児童の姿（観点）【評価方法】
◎活動への見通しをもち、意欲的に取り組もうとしている。 (主体的態度) 【学級会ノート・観察】
◎「3年1組のハッピーハロウィンを楽しもう」の目的に合った意見を考え、学級会ノートに書いている。 (知識・理解) 【学級会ノート・観察】

本時のねらい 3年1組だけのハッピーハロウィンになるための内容や工夫を考えることができる。		
話し合いの順序	気をつけること ○留意点	◎目指す児童の姿 (観点)【評価方法】
1 はじめの言葉 2 計画委員の紹介 3 議題の確認	・めあてをもって自分の役割に臨めるようにする。	
3年1組のハッピーハロウィンを楽しもう		
4 提案理由の確認 5 めあての確認 6 決まっていることの確認	・提案者の思いや願いが伝わるよう、事前に背面黒板に記入して学級全体で周知しておく。 『ハッピーハロウィンにするために一人ひとりが意見を出し合って考えよう。』 ・決まっていることを確認する。 ①10月30日 3校時 ②場所・・・教室 ③三つ	
7 先生の話	○前時までの取り組みの良かったところと期待を伝え、本時の意欲を高める。	
8 話し合い 話し合うこと① 「何をするか」	・「比べ合う」から進められるように、事前に柱①について自分の意見を学級会ノートに書き、集計して短冊に書いておく。	◎みんなでハロウィンを楽しむために何ができるか、どんな工夫をしたらよいか理由も述べながら発言したり、友だちの意見と比べて聞いたりしている。 (思考・判断・表現) 【観察・発言】
話し合うこと② 「ハロウィンにするためのくふう」	○司会が進行に困ったときや話がずれたり意見が止まったりした時には、教師が介入しながら、前の人の意見をつないで話し合いができるようにする。 ○時間設定を行い、時間の中で話し合いができるように促す。 ○必要に応じて、提案理由に沿ったものかどうか、考えられるよう助言する。	
9 決まったことの発表 10 振り返り 11 先生の話 12 おわりの言葉	○自分自身や友だちの成長したところや次に繋がる課題等について書いてある振り返りを紹介する。 ○自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いて考えたりしていた児童を称賛する。 ・実践への意欲が高まるように言葉掛けを行う。	

日時	計画委員の活動計・学級全員の活動学
10月24日(火) ①朝の会	①決まったことを知らせる計 ・学級会で決まった要点をまとめて伝える。
10月24日(火)～ ②休み時間	②ハロウィンに向けての準備学 ・友だちと協力しながらグループに分かれて準備を行う。
10月30日(月) ③学級活動 ④帰りの会	③活動の実施学 ・めあてを確認し、楽しみながら協力して実践できるようにする。 ④振り返り学 ・めあてに対する振り返りをするとともに、自他の頑張りを認められるようにする。

◎目指す児童の姿（観点）【評価方法】
◎活動内容を振り返り、自他の頑張りに気付いたり、次の活動に生かそうとしていたりしている。 (主体的態度) 【学級会ノート・観察】
◎活動のめあてを意識し、友だちと協力して取り組んでいる。 (思考・判断・表現) 【学級会ノート・観察】

5. 板書計画

だい七回 学級会

議題
「3年1組のハッピーハロウィンを楽しもう」

提案理由
・もうすぐハロウィンだし、クラスでハロウィンをしたことがないので、みんなでするときに楽しいと思ったから。

めあて
・ハッピーハロウィンにするために一人ひとりが意見を出し合って考えよう。

決まっていること
・10月30日 3校時
・教室
・三つ

柱①何をするか
出し合う
くらべあう
ダンス
・これ何でしょう
・なんでもバスケット
・くじびき
・ばくだんゲーム
・かぼちゃパレー

まとめ

柱②ハロウィンにするためのくふう
出し合う
くらべあう
かざりつける
かざりつけ(おり紙)
音楽をかける

まとめ

柱③役割
ゲームのじゅんび
かざりつけを作る